

### 安心安全な都市 東京を目指して

公益社団法人 東京都ベストコントロール協会 会長 玉田 昭男

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、明るく希望に満ちた平成27年の新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。また、平素は協会の運営に格別のご支援ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、年の前半は協会事業も順調に進捗し、協会内でも大きな問題はありませんでした。しかし後半に入り、東京都より協会に対し感染症対策としての出動要請が相次ぎました。一つは8月下旬に我が国で70年ぶりの発生となるデング熱患者の発生により、発生源とされた代々木公園でのウイルス媒介蚊の駆除依頼であり、更に11月にはリベリアから帰国したエボラ出血熱感染の疑いがある患者(結果として陰性)を移送した救急車及びアイソレーターの消毒依頼です。

デング熱媒介蚊の駆除にあたっては、東京都及び国立感染症研究所の指示を仰ぎ準備を進めていきましたが、使用薬剤や機材の選定をどうするか、公園利用者等への曝露軽減など幾つかの問題がありました。そこで2010年に感染症予防衛生隊が蚊の駆除実技研修を行った際に、人に対し安全性が高く、且つ自然環境に悪影響が少ないと確認されたエトフェンプロックスを使用し、動力噴霧器を使用した広範囲にわたる散布、ハンドスプレーヤーによるピンポイント散布という方法を選択しました。その後、都内複数の公園・緑地に於いても媒介蚊の存在が確認され、作業範囲が拡大していきました。一方エボラ出血熱が疑われた方の搬送車両とアイソレーターの消毒に関しては、衛生隊員が感染するという状況を危惧しましたが、以前SARSが騒がれた時に防護服のガウンテクニックを含め、移送車とアイソレーターの消毒訓練を行っていたので、その経験が生きて混乱することなく完了しました。

かつて経験した事のないこれら要請に対し、感染症予防衛生隊を中心とする協会対応が出来たと思います。将来的に目を向ければ、気候変動、国際交流の更なる拡大等により、島国の日本に存在しなかった感染症や有害生物が侵入してくるであろうことは間違いありません。ペスト(やっかい者)コントロールを業とする我々は、更なる研鑽を続けそれらに対応していかなければなりません。

感染症予防衛生隊はもちろん、会員の方々が有害生物、不快生物だけではなく細菌、ウイルスに立ち向かえる能力を高めるための研修等の充実を図って参ります。協会設立目的である、衛生的かつ快適な生活環境を保持増進させて、都民の健康と福祉に貢献し、都民に信頼される協会を築いていくよう、努力してまいります。会員の皆様の更なるご支援ご協力をよろしくお願いします。

結びにあたり、皆様におかれましては素晴らしい年になりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。